

グループホーム は一とふる東住吉 2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や更衣室に理念を掲げ、毎日出勤時に黙読している。管理者は職員と共に可能な限り理念に沿った環境作りを心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為に接触のある交流はできないが、地域活性化ネットワークへの参加や、町会の回覧板等で地域の情報を入手している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染防止の為に、令和2年3月頃より地域での活動が中止となり、それに伴い施設でも他者との接触を最小限に留める為、地域との交流は中止しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止の為に、施設内で開催する会議は行っていませんが、書面にて報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	ケースワーカーと密に連絡を取り合い、困難事例に対しても積極的に受け入れていくようにしています。また、事故等があった場合は、速やかに書面で報告する等、相談や連絡も密に行うようにしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	1回/3カ月の身体拘束適正化委員会を開催し、個々の身体拘束について検討しています。また、2回/年の研修を行い、職員一人ひとりが身体拘束について省みるよう努めています。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロック等、些細な事でも虐待につながる可能性がある行為については、職員間で声を掛け合い、職員間の精神面においてもケアに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用している入居者様はおられないが、必要時はケアマネ等と相談し、速やかに活用できる体制にある。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、わかりやすい言葉で説明し、わからない箇所については、丁寧に説明するように努めています。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に入居者様や家族様に参加して意見を頂こうと思っているが、コロナウイルス感染防止の為、参加は実現できていない。しかし、終息した場合には参加して頂く予定である。</p>		
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1回/月職員会議を開催しており、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、非常勤の職員に対しても1回/月スタッフ会議を開催し、些細な意見も聞く機会を設け、それを反映させるように努めている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各ユニット毎に1回/月スタッフ会議を開催し、意見を出し合う機会を設けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人については研修担当を任命し指導してもらっている。また、各職員に対しては、研修に対する報告書を作成してもらっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>小規模・グループホーム連絡会に参加しているが、コロナ禍により、開催が9月以降中止になっている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望や意見を伺いやすい状況を作り、アセスメントを踏まえて話し合いを行い、可能な限り応えるように努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族関係を把握し、面会や電話で、家族の要望や意見を取り入れ、信頼関係を構築できるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や家族様の要望を聞き、施設が必要と判断した居宅療養管理指導や訪問理美容等のサービスを導入しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を自分の家族と思いつつも、人生の先輩として敬い、終の棲家として安心してもらえる関係になるように努めています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況や変化等、必要に応じて家族様にお伝えし、毎月家族様にはお手紙で状況報告を送付させて頂いております。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為馴染みの場所や家族・友人・知人との面会も難しい状態になっているが、写真や音楽等で記憶を掘り起こして頂けるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の身体・認知状況を把握し、関係性を築きやすい入居者を同じテーブルで過ごしてもらったり、職員が間に入り媒体となって関わりやすい環境作りに努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化により退去となった方についても、転院時に情報を提供したり、居宅に戻られる方については、居宅介護へ繋いだり、相談や支援に努めています。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人の趣向や経歴等を把握し、家族様の意向も踏まえてレクレーションや環境整備に活かせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	外出の際に入居者が暮らしていた場所を散歩していたが、コロナ感染防止の為、現在は行われていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、入居者が安全に行う事ができる洗濯量や袋の整理、テーブル拭き等身体状況に応じた役割を持ってもらい、身体機能や家事能力を維持して頂けるように努めている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前や入居後、認定更新時に家族様・入居者様、スタッフ・ケアマネ等でケアについて話し合い、それに基づいて介護計画を立てている。また、モニタリングについては、毎月又は、変化があった際に行うようにしている、	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎個別に記録簿を作成し、記録している。それを担当者会議やスタッフ会議等で役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスの継続を基本とし、家族様と相談しながら、飲食の嗜好や住環境等に対して柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年は、地域の幼稚園の演奏会やふれあい喫茶等の交流はあったが、コロナウイルス感染拡大により中止となり、本年は行われていない。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2カ所の医療機関から往診を受けており、医師が必要と判断された場合は、医師から直接家族に連絡している。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>施設担当の看護師とは、訪問時に医療情報記録ノートで職員と情報を共有し、往診の医療機関とは気づきたい事を連携シートで情報を提供している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、入院時情報提供書を作成し、病院にお渡ししており、MSWとの連携に努めている。</p>		
33	<p>12</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様・家族様に対し、看取りや緊急時の医療処置について事前に確認を行っている。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時や事故発生時に対するマニュアルを作成し、それに対する研修を行っている。</p>		
35	<p>13</p> <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>2回/年の防水訓練と消防訓練を行っている。2階に位置している為、階段を降りる方法について実際に職員がモデルとなり訓練を行っている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等は特に入居者のプライバシーに配慮し、日常的に意思を尊重して言葉かけを行うように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる必要な支援を行い、ご本人が意向や思いを尊重できる支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独語や奇声・うつ・等の認知症状を把握し、テーブル配置やレクの選定を工夫しています。また、かまって欲しい方・一人を好まれる方等については個々に応じた声かけや支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の身体状況・季節・好みに応じた服を選択し、排泄時に負担のないように配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のアレルギーや好き嫌いを把握し、盛り付けや容器についても個々の入居者に応じたもので提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々の入居者の咀嚼状況に応じた食事を提供し、毎食後摂取量や水分量を記録しており、自己摂取が困難な入居者には介助を行い、できるだけ全量摂取してもらうように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方に対しては入れ歯の手入れを行い、入れ歯がない方に対しても口腔ケアを食後毎回行っています。また、自分でうがい等ができる方に対しては促しを行い、できるだけ自分で行うようにしてもらっていますが、十分でない為、職員が支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の入居者の身体状況に応じた排泄介助を行っており、日中はできるだけトイレ排泄してもらえるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を把握し、便秘が続く入居者に対しては、水分補給や体を動かす等を行い、できるだけ自然排便を促すようにしている。困難な場合は、医師の指示の基、服薬等で対応している。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の身体機能を把握し、意向を確認しながら入浴を促して、安全に気持ちよく入浴できるように支援している。浴室は毎回清掃し清潔な環境を維持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に外気浴等で活動性を高める事で、生活リズムを整え、夜間良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬の管理が行われており、職員が薬剤師の指示の基、入居者に服用してもらっている。服用に対しては、嚥下状況に応じ、粉碎(薬局)やゼリー等で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎のイベントに参加してもらい、少しでも活気のある生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、外出は控えているが、天気の良い日はベランダで外気浴をもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、基本的に家族に行ってもらっている。コロナ禍で外出できない為、現在は必要な物資については職員や家族で購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話をつないだり、リモートで話せるように家族に通知し、利用してもらっている。リモートに慣れていない入居者に対しては職員が同席し、家族と気持ちよく面会できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に温度や湿度・彩光を調整している。また、季節感を持って生活してもらう為に月毎に壁の飾りを変えている。		

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>認知症状に応じたテーブル配置を行っており、常に職員が見守りを行い、入居者同士の心地良い距離感を保てるように配慮している。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>定期的に居室の掃除や換気を行い、衛生的な環境で過ごしてもらえるようにしている。また、個々の身体機能に応じた家具やベッドの配置を工夫している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>離床している時間を少しでも多くする為に、日中は食堂で過ごしてもらっている。手の届く範囲でテーブルを拭いてもらったり、洗濯物や袋を畳んでもらう作業を支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	①	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	③	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	②	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	④	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	③	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	②	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	①	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	②	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>